

第 1 回持続可能な調達ワーキンググループ 議事要旨

■日時：2022年3月7日（月） 15:30-18:00

■場所：Web 会議システムによるオンライン開催

■出席者（敬称略・五十音順）

<持続可能な調達ワーキンググループ委員>

委員長：加賀谷

委員：岡本、崎田、高橋、富田、矢田（大中委員代理）、山田

オブザーバー：井尻

<ヒアリング>

（公財）世界自然保護基金ジャパン 森林・野生生物室 相馬、古澤

■議題

（1）持続可能性に配慮した調達コード（案）

- 共通基準について
- 個別基準（木材・紙）について
- 個別基準に関するヒアリング

■議事概要

（1）持続可能性に配慮した調達コード（案）

— 共通基準について

- ・ 協会より、持続可能性に配慮した調達コード（案）について資料説明の後、意見交換が行われた。
- ・ 委員による発言概要

調達コード全般に関して

- ◇ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの調達コードが作られた 5 年前と比較すると状況は変わっている。最新の状況を踏まえて検討して欲しい。
- ◇ 企業も人権方針の作成やデュー・デリジェンスが期待されている段階で、要求レベルが格段に上がっている。東京 2020 オリンピック・パラリンピックの調達コードをベースにしたというのは安心材料にならず、見直しは必要になってくる。
- ◇ まずはどれくらい高いレベルを目指すのかというイメージが極めて重要となる。
- ◇ 実現可能ながらも社会を一步二歩進められるようなレベル感をしっかりと追っていくということになると思う。
- ◇ 調達コードの取組みに関する情報発信の戦略を考えた方がよい。
- ◇ 調達コードを守っている企業をどう評価し、どう発信するかが重要である。

- ◇ 調達コードには環境等にプラスの影響を与える取組みの記載も含まれている。契約の際、先進的取組みも書いてもらおうと、優良事例を収集でき、有益ではないか。
- ◇ 適用範囲をパビリオンの運営主体まで広げたという点に大いに賛成する。
- ◇ パビリオン運営主体とその直接の契約相手にも適用されるという点は適切だと思う。
- ◇ 人権・環境 NGO の委員がいないため、NGO から話を聞く機会があるとよい。
- ◇ 委員の説明責任もある。ワーキンググループの詳細な議事録の公開や YouTube などでの公開を検討して欲しい。
- ◇ 大阪府・大阪市でも、レガシーとして調達コードが継続して使われるように、万博を契機に取り組んで欲しい。

共通基準に関して

- ◇ 万博の調達において、カーボンニュートラルの取組みは非常に重要であり、この視点も取り入れて欲しい。特に、輸送に係る CO₂削減に取り組んで欲しい。
- ◇ 大阪・関西万博では半年の開催期間後に全て壊すため、より大きな影響が出る。できる限り後利用するという記載はあるが、今後のロールモデルになるよう、この点を議論すべき。
- ◇ 後利用は非常に大切。最初の契約段階で、リユースやリース・レンタルを優先するなど、後利用を考えた調達をして欲しい。
- ◇ まずは発生抑制に努め、リユースや再生資源も積極的に活用し、使い終わった後も 3R を徹底していくという循環経済の全体の流れをコーディネートすることが重要となる。
- ◇ 3R の促進だけでなく、「3R・サーキュラーエコノミー」といった広めの項目の書き方がよい。
- ◇ 関心の高まっている大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向けたプラスチックへの配慮なども発信した方がいい。
- ◇ 大阪ブルー・オーシャン・ビジョンがあるように、海洋ごみのマイクロプラスチックに関する内容は象徴的なものとして記載して欲しい。
- ◇ 明示的に「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」という表現も入れられないか検討して欲しい。
- ◇ 賃金の記載を見ると、法令で定める最低労働賃金を支払えばいいと解釈されないかを感じた。表現の見直しを検討して欲しい。
- ◇ 強制労働や外国人労働者に関しては、もう少し具体的な記載にして欲しい。
- ◇ ハラスメントの記載があまりなく、追加が望ましい。
- ◇ 地域の発展や活性化のため、地元関西の中小企業や地元産品の参加しやすい仕組みづくりも重要と考えている。

担保方法に関して

- ◇ 実効性が問題である。調達コードは守られなければ意味がないため、担保するための努力が大事である。プロアクティブな確認行為が重要になってくる。
- ◇ 問題が発見されたとき、誰が監査を行うのか明確にした方がよい。基準を決定する協会が最後まで関与すべきだが、協会が各国政府に介入できるのか気になる。
- ◇ サプライヤーが自らの事業に関連する持続可能性リスクを確実に評価するという記載があるが、これが本来は企業にとってのリスクというよりは環境や社会にとっての持続可能性に対する負の影響を意味すると分かるようにした方がよい。
- ◇ リスクの確認・特定について、人権デュー・デリジェンスの考え方を参照することも有益であると脚注に書かれているが、本文に記載した方が望ましい。
- ◇ 苦情処理メカニズムについては、現時点で詳細が決まっていなくても頭出しの記載を入れた方がよい。
- ◇ 苦情処理に関する対応は、パピリオン運営主体が大きな影響力を持つため、協会と協働で取り組むとよいと思う。

一 個別基準（木材・紙について）

- ・ 協会より、調達コード個別基準（木材・紙）について資料説明の後、意見交換が行われた。
- ・ 委員による発言概要

個別基準に関して

- ◇ FSC などの認証材は、中小事業者にとって取得のハードルが非常に高いと聞く。中小事業者を排除しないように、別で基準に準じるような形を用意してもらえるとありがたい。
- ◇ 万博には中小企業振興の側面もあり、中小企業が参加を諦めるといったことは避けなければならないが、かと言って甘くなることも許されない。
- ◇ 国産材については「優先」という言い方で入れて欲しい。国産材を優先的に使いながら、日本の林業を振興することが大事だと思う。国産材であれば輸送に係るカーボンフットプリントも低い数字になる。
- ◇ 国産材を優先的に調達することには賛成だが、その際に WTO などいろいろな議論があるため、なぜ国産材なのか、どういう基準で調達するのか、どうサステナビリティの観点からプラスなのかを明確にして欲しい。
- ◇ 木材に関しては、事前に懸念があるのかを見える形にするところまで、情報公開に踏み込めるといいと思う。
- ◇ 木材と紙で、リスクの高い部分をモニタリングするという点を明確化して欲しい。
- ◇ 木材や紙の個別基準における「推奨」という言葉については、全体が弱まっているのが気になる。今後議論が必要。

- ◇ 「推奨」の言葉が何度か出てくるが、推奨しても何もやらない可能性があるため、どこまで求めるか明確にしないと、意味のない条項になってしまう。
- ◇ トレーサビリティについて「推奨」という表現があるが、もう少し担保できるような記載に変更した方がよい。それでは監査やモニタリングで情報を得られないかもしれない。
- ◇ 日本では違法伐採に対する貿易管理体制があまり厳しくないため、調達コードに入れていかなければ国内外の信頼を得られない。
- ◇ コンクリート型枠については、「再使用」の定義が問題。一度使えば再使用とみなして問題なしとするのか。トレーサビリティをどこまで確保するかが重要な要素となる。

一 個別基準に関するヒアリング

- ・ (公財) 世界自然保護基金ジャパンより、大阪・関西万博の調達コードに関する提言についてプレゼンテーションの後、意見交換が行われた。
- ・ WWF によるプレゼンテーション概要
 - ◇ 森林破壊・農地転換の現状・リスクと国際的に求められる持続可能な調達の課題について説明。
 - ◇ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの持続可能性に配慮した調達コードの課題を踏まえ、大阪・関西万博の調達コードに関して、非認証木材・紙の確認方法やデュー・デリジェンスを通じたリスク低減について提言。
- ・ WWF によるプレゼンテーションに関する意見交換概要
 - ◇ 提言には賛成できる部分が多いが、企業にとっては、全ての記録の提出を求めると難しくなる。リスクが高いものの提出を求めるといった落としどころも考えられる。今回の万博ではどのような製品や国・地域・分野のリスクが高く、しっかり記録化や提出を求めるのがよいと考えるか。
 - ⇒ 全てではなく抜き打ち方式にする方法もあり得る。記録を提出しなくとも公開を義務付けると抑止力になる。リスクの考え方については、森林破壊が現在進行形で起きているところや、腐敗度指数がいくつ以上のところには必要といった考え方がある。型枠合板の産地であるインドネシアやマレーシア、紙はインドネシアのリスクが高い。
 - ◇ 非認証の木材・紙の確認方法の代替案にある第三者の監査は、中小企業にとって非常に大変。想定規模感・レベル感・方法を教えて欲しい。
 - ⇒ 例えば、規模の大きな事業者には第三者の監査報告の提出を求め、それ以外の事業者には基準を満たしていることを書面に記録し提出してもらって協会が確認する方法もあると思う。
 - ◇ 現実感をもった形にするためにはどうすればいいか検討していきたい。

- ◇ 全てを徹底するのが難しい場合、取引ベースで大きい企業は、環境へのインパクトも大きい
ため、より徹底していくという考え方になるだろう。
 - ◇ コンクリート型枠木材の問題が大きい。改善する場合、どういう施策が現実的にあり得るかア
ドバイスして欲しい。
 - ⇒ 基本的には再使用するというのが一番理想的。一案として、「再使用」を定義して基
準に入れ込み、それに合わないものであれば、トレーサビリティをとって基準への適合を
確認していくのが現実的かと思う。
 - ◇ バイオマス発電は、木材チップの点で懸念があると思うが、教えて欲しい。
 - ⇒ バイオマス発電の木材が森林破壊の起きている地域から来る可能性は大いにあり、
バイオマス発電用の燃料の木質等の持続可能性も大きな問題が起きている分野で
ある。
 - ◇ 森林破壊の最前線国のようなところに関しては、徹底してレベルを上げるといった管理の仕
方もあるかと思うが、現実的かどうかコメントを聞かせてほしい。
 - ⇒ 万博のリスク産地の考え方を示したガイダンスがあると事業者にとっては分かりやすいと
思う。プレゼンテーションで示した地域が森林破壊の最前線と考えているが、熱帯に
限った分析であるため、FSCの国別リスク評価や Preferred by Nature が出して
いる評価も活用できる。また、ガバナンスという観点では腐敗度指数も有効である。
 - ◇ トレーサビリティの「推奨」が弱いとは思いますが、推奨から変更した場合にかかるコストを考
え、どう整理すべきか。
 - ⇒ 木材や紙に関しては、大手の商社やハウスメーカー、ディベロッパーなどの民間企業で
は、国際基準に合わせて進んだ調達方針を持っているなど取組みが進んでいる。万
博での調達を通して、国際基準に合致する方針を持つ企業が増えるのは非常に望
ましいインパクトである。従来、そのようなコストは負担する必要がなかったのかもしれ
ないが、欧米の法律の流れを見ていると、特に大手にとっては対応は避けられないと
思う。
- ・ 持続可能性に配慮した調達コード（案）については、次回のワーキンググループでも議題として取
り上げることとした。

以上